

【児童発達支援事業 自己評価実施の概要】

1)利用者調査有効回答者割合 75%：配布数 12 世帯、 回収数 9 世帯
職員有効回答者割合 100%：配布人数 14 名 回収 14 名

2)評価スケジュール：

利用者調査の実施：2025 年 11 月～12 月

職員調査の実施：2025 年 11 月～12 月

3)利用者調査 分析結果と今後の取組み

利用者調査と職員調査それぞれについて、調査結果から良かった点を強み、改善すべき点を弱みとして分析いたしました。

結果については、第三者による評価も受けています。

児童発達支援 利用者アンケート結果まとめ

1. 環境・体制整備

〈強み〉

- ・活動スペースがゆったり確保され、清潔で過ごしやすい環境になっている。
- ・職員の人数や専門性、環境の構造化やバリアフリーへの配慮が適切である。

〈弱み〉

- ・利用者人数が多い時、職員に声を掛けづらい雰囲気がある。

〈今後に向けて〉

- ・保護者の方が声をかけやすい雰囲気づくりや動き方の工夫を検討していきます。
-

2. 適切な支援の提供

〈強み〉

- ・ご家族の思いやお子さんのニーズを反映した個別支援計画の作成と、その計画に沿った支援が行われている。
- ・活動内容も固定しすぎないよう工夫されている。

〈弱み〉

- ・保育所や幼稚園、地域の子どもたちとの交流については、「地域交流が少ない」というご指摘があり、評価が分かれた。

〈今後に向けて〉

- ・地域や障害のないお子さんとの交流について、保護者の方のご希望・ご心配の両方を伺いながら、実施の可否や方法を検討していきます。
-

3. 保護者への説明等

〈強み〉

- ・日々の関わりを通して、お子さんの様子や課題を共有できている。
- ・連絡帳アプリなどを活用した情報共有ができている。
- ・定期面談や育児相談もしやすく、相談への対応も迅速で丁寧である。

〈弱み〉

- ・運営規程や利用者負担の説明、家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)について、「知らなかった」「機会が少ない」と感じる方がおられた。
- ・「親同士で話す機会が少ない」「もう少し交流の場があると嬉しい」といった、保護者同士のつながりに関するご意見があった。
- ・会報やホームページでの情報発信、「個人情報の取り扱い」についても、十分に伝わっていない可能性が示唆された。
- ・イベントが特定の曜日に偏り、医療的ケアが必要なお子さんが参加しにくい場合があるとのご指摘があった。

〈今後に向けて〉

- ・運営規程や利用者負担について、資料や面談を通して、よりわかりやすく丁寧にお伝えしていきます。
 - ・保護者同士が話しやすい交流の場を検討します。
 - ・会報やホームページでの情報発信を充実させ、自己評価結果や取り組みも積極的にお伝えしていきます。
 - ・個人情報の扱いについても、安心していただけるよう、説明の機会を増やしていきます。
 - ・イベントの曜日・時間帯を見直し、多くの方が参加しやすいよう配慮します。
 - ・外来との連携を強め、必要なお子さんにデイケアの情報が届くよう工夫します。
-

4. 非常時等の対応

〈強み〉

- ・避難訓練や救出訓練は定期的に行われており、きちんと取り組んでいる。
- ・感染症対策についても、一定の安心につながっている。

〈弱み〉

- ・緊急時対応、防犯、感染症対応の各マニュアルについて、周知が徹底されていない。

〈今後に向けて〉

- ・各マニュアルの内容と、保護者の方をお願いしたい行動について、資料配布や掲示、面談などを通して、改めて丁寧にお伝えしていきます。
- ・実際の避難経路や想定される場面を、図や写真等も用いて共有する方法を検討します。

5. 満足度

〈強み〉

- ・「通所を楽しみにしている」「支援に満足している」との回答がすべての方から得られた。
- ・「親子ともに毎日楽しく通っています」「安心できる場所を提供していただき感謝しています」など、あたたかいお言葉を多数いただいた。
- ・職員の明るい挨拶や声かけ、細やかな気配りが、保護者の安心感につながっている。

〈今後に向けて〉

- ・現在の高い満足度を大切にしつつ、いただいたご意見を改善につなげ、より安心して通っていただけるセンターを目指していきます。
- ・今後も保護者の方の声を丁寧に伺いながら、一緒にお子さんの成長を支えていけるよう努めてまいります。

児童発達支援 職員自己評価 分析結果と今後の取り組み

1. 強み

● 質の高い個別支援

- ・アセスメントを丁寧に行い、ご利用のお子さんご家族の思いや課題を整理したうえで、支援計画を作成できている。
- ・活動プログラムは職員同士で話し合いながら立てており、その子の様子に合わせて個別と集団の活動を組み合わせる工夫をしている。
- ・支援前後の打ち合わせ、日々の記録、定期的なモニタリングによる計画の見直しなど、支援の流れが一通り整っている。

● 安全管理と危機対応

- ・非常災害訓練の実施、服薬やアレルギーの事前確認、ヒヤリハットの共有、虐待防止の

研修など、安全に関する取り組みがしっかり行われている。

- ・体調不良時の対応マニュアルについても、整備のうえ周知されている。
- 保護者との連携と情報共有
 - ・日々のお子さんの様子や発達面の課題について、ご家族と共通理解をもっている。
 - ・会報などを通じた活動・行事のお知らせも十分にできている。
 - ・個人情報の扱いにも気を配っており、小学校など進学先への情報共有も行えている。
- 職員の学びへの意識
 - ・職員が力を伸ばしていくための研修の機会について、「確保されている」と感じている職員が多く、学び続けようとする姿勢が見られる。

2. 弱み(課題)

- 環境・体制の課題
 - ・利用定員に対しての部屋の広さや、職員の配置数について、工夫が必要である。
 - 外部機関・地域とのつながり
 - ・相談支援事業所の会議への参加、母子保健や子育て支援関係者との連携、医療・保健・福祉・保育・教育機関との連携、主治医や協力医療機関との連絡などについて、「十分できている」と感じていない職員がいる。
 - 業務改善と情報公開
 - ・PDCA サイクル(計画→実行→振り返り→改善)の取り組みに、どの程度関わっているか「よくわからない」と感じる職員がいる。
 - ・自己評価の結果を会報やホームページでどのように公開しているかについても、「わからない」という回答があり、業務改善、情報公開について職員全体に十分共有されていない可能性がある。
 - 家族支援と説明のしかた
 - ・家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の提供は、「行われている」と答えた職員が 35.7%にとどまり、今後の充実が必要である。
 - ・運営のきまりや利用者負担の説明、相談対応、保護者会などを通じた保護者同士のつながりについても、「はい」が 7 割台、「どちらともいえない」との回答が一定数ある。
 - ・防犯や感染症対応のマニュアルについて、保護者への説明・周知が十分か課題として挙げられている。
-

3. 今後に向けて

● 体制・環境の見直しと専門性アップ

- ・お子さんが安心して過ごせるスペースの確保や、職員配置の見直しを検討し、働きやすく支援しやすい環境づくりを進めます。
- ・外部研修にも積極的に参加し、また他施設との情報共有・アドバイスを取り入れ、職員全体の専門性と支援の質をさらに高めていきます。

● 外部機関・地域との連携と情報の共有

- ・相談支援事業所、医療機関、保健・子育て支援関係機関、保育・教育機関などとのつながりを整理し、連携の流れをわかりやすくしていきます。
- ・自己評価の結果や日々の取り組みについて、職員全員が把握し、保護者の方にも分かりやすくお伝えできるよう、情報共有の方法を見直します。

● 家族支援と保護者同士のつながり

- ・保護者会や小規模な交流会など、保護者同士が安心して話せる機会を定期的に設け、つながりづくりを支援します。
- ・運営規程や利用者負担についても、資料や面談などを通じて、より丁寧でわかりやすいご説明を心がけます。

● マニュアルの周知と理解の共有

- ・防犯・感染症対応を含む各種緊急時マニュアルについて、職員で内容を再確認し、共通理解を深めます。
- ・保護者の方には、資料配布や掲示、面談時の説明などを通じて、「いざという時にどうするか」がイメージしやすい形でお伝えしていきます。

これらの取り組みを少しずつ積み重ねながら、今ある良いところを伸ばしつつ、見えてきた課題にも丁寧に向き合い、今後もお子さんとご家族に「安心して通える児童発達支援」を提供できるよう努めてまいります。